

(投稿者各位 今後、以下の諸規則に従ってご執筆くださいますよう、よろしくお願いいたします。

2025年5月 編集委員会)

『日本カトリック神学会誌』投稿規定

1. 投稿者は原則として本学会員に限られる。
2. 投稿論文の内容は未発表の学術論文であること。
3. 投稿論文の文字数は16000字程度とする。
4. 書式は横書きとする。
5. 原稿は、原則としてWordファイル（A4横書き）で編集事務室にメールにて送付する。
6. その際、合わせてPDFファイルもメール添付にて編集事務室に送付する（PDFファイルに代わり、印刷原稿の郵送でも可）。
7. 聖書からの引用について、学問的理由から独自の立場を表現する場合以外は、原則として『新共同訳聖書』または『聖書協会共同訳』に従って引用する。また、書名の略語も同訳にならう。
8. 脚注における引用について、学術叢書や論文集などの略号は原則として以下による。その他、特殊な略号は文末脚注で明記する。

TRE : S. M. SCHWERTNER, *Theologische Realenzyklopädie. Abkürzungsverzeichnis*. 2., überarb. und erw. Aufl., Berlin - New York 1994.

IATG³ : S. M. Schwertner (ed.), *Internationales Abkürzungsverzeichnis für Theologie und Grenzgebiete*, Berlin/ Boston 2014.
9. 論文の審査について、本誌編集委員会が査読する。審査結果は後日、投稿者へ通知する。
10. 参考文献表はつけない。注は文末脚注とする。
11. 投稿論文が査読の結果『日本カトリック神学会誌』に掲載可となった場合、当該論文はJ-STAGEにおいて電子化公開されることを承諾していただいたものとする。

『日本カトリック神学会誌』 —文末脚注における文献引用の手引き—

1. 単行本

1. 1. 和書

1. 1. 1. 和書は(1) 著者名、(2) 『 』でくくられた書名、(3) ()にくくられた出版社名と発行年の順序で示される。

1. 1. 2. なお、出版社名と発行年の間には読点を、全休の終わりには句点を付す。数字は算用数字で記す。書き出しの行は1字空ける。

齊藤孝『学术论文の技法』（日本エディタースクール出版部、1977年）。

1. 1. 3. 改訂版の場合、出版社と発行年との間に、第2版または第3版などのようにその回数を記す。
古屋安雄『宗教の神学—その形成と課題』（ヨルダン社、第2版、1988年）。

1. 1. 4. 邦訳の場合、原著者名、書名、訳者名、出版社名、発行年の順に並べて記す。

M・ワイルズ『キリスト数教理の形成』三小田敏雄訳（日本基督教団出版局、1983年）。

1. 1. 5. 同一文献を続けて引用する場合。なお()内は文末脚注番号を例示。

(1) 宮本久雄『教父と愛智—ロゴス(言)をめぐって』（新世社、改訂増補版、1990年）114頁。

(2) 同書、117頁。

(3) 同上。

1. 1. 6. 同一文献の引用の間に他の研究が引用される場合。

(1) 栗林輝夫『荊冠の神学—被差別部落解放とキリスト教』（新教出版社、1991年）37-60頁。

(2) 土屋吉正「トリエル通信」伊藤義清・藤崎康夫・横山孝雄・土屋吉正共著『解放の神学—日本からの視点』（燦葉出版社、1985年）177-191頁。

(3) 栗林輝夫、上掲書、482-489頁。

(4) 同書、483頁。

(5) 同上。

1. 1. 7. 同じ著者による複数の研究を繰り返し引用する場合、初出の場所で書名あるいは論文名を略すことを断った上で、2回目からは次のように略記する。

(1) 鳥巢義文「エイレナイオスの救済論における聖霊の役割—創造における展望」『南山神学別冊』1号（1982年）36-49頁。

(2) 同「霊の注ぎ—グノーシス主義者とエイレナイオスにおける比較」『南山神学 別冊』3号（1984年）1-12頁。

[以下「霊の注ぎ」と略記]

(3) H・J・マルクス「聖体と聖霊—東方典礼におけるエピクレシスの教理史的背景」『南山神学』10号（1987年）200-202頁。

(4) 鳥巢義文「霊の注ぎ」、上掲論文、11頁。

1. 2. 洋書

1. 2. 1. 洋書は(1) 著者名、(2) 書名、(3) 発行地、(4) 発行年の順序で示される。著者名と書名間はコンマを打ち、全休をピリオドでくくる。発行地と発行年の間はコンマを打たない。洋書一般の場合、著者名を大文字で、書名をイタリックで記す。

1. 2. 2. 書き出しの行は半角2字空け、著者名はファースト・ネームのイニシャルから記す。

R. P. C. Hanson, *The Search for the Christian Doctrine of God*, Edinburgh 1988.

1. 2. 3. 改訂版の場合、発行年の上前部に^{2 3}などのように、その回数を記す。

J. N. D. Kelly, *Early Christian Creeds*, London³1983.

1. 2. 4. 同一文献を続けて引用する場合。

(1) R. Krautheimer, *Three Christian Capitals. Topography and Politics*, Berkeley/ Los Angeles/

London 1983, 69-71.

(2) *Ibid.*, 73.

(3) *Ibid.*, 74.

1. 2. 5. 同一文献の引用の間に他の研究が引用される場合。

(1) G. Dix, *The Shape of the Liturgy*, London¹¹1975, 50-102.

(2) L. Bouyer, *Eucharist. Theology and Spirituality of the Eucharistic Prayer*, Indiana 1968, 91-115.

(3) G. Dix, *op. cit.*, 61.

1. 2. 6. 同じ著者による複数の研究を引用する場合、和文の場合と同様に、初出の場所で略記を断って、2回目からは次のように略記する。

(1) O. Casel, “Zum Wort sacramentum”, JLW 8 (1928) 225-232. [以下 “Zum Wort” と略記]

(2) Id., “Glaube, Gnosis, Mysterium”, JLW 15 (1941) 155-305.

(3) A. Schilson, “Kulturelle Dimensionen des christlichen Kults. Aspekte einer zeitgenössischen Mystagogie in der Liturgischen Bewegung und bei Romano Guardini”, LJ 42 (1992) 150-165.

(4) O. Casel, “Zum Wort”, *op. cit.*, 231-232.

1. 2. 7. 同一文献の引用の間に他の研究が入り、再び戻って同一頁から引用する場合（ただし、同一文献の引用間が開きすぎると探しにくくなるので注意を要する）。

(1) J. Shiel, *Greek Thought and the Rise of Christianity*, London 1968, 50-51.

(2) H・チャドウィク『初期キリスト教とギリシア思想』中村坦・井谷嘉男訳（日本基督教団出版局、1983年）22-48頁。

(3) J. Shiel, *loc. cit.*

1. 2. 8. 教父などから引用箇所を記す場合、次のように批判的編集をも併記する。

(1) Irenaeus, *Adv. Haer.* V, 2, 3 = SChr 153, 34 (vv. 37-43).

2. 学術論文

2. 2. 和書

2. 1. 1. 和書雑誌論文は、(1) 著者名、(2) 「 」でくくられた題名、(3) 『 』でくくられた雑誌名、(4) 雑誌の巻、号数、(5) ()でくくられた発行年、(6) 頁数。

H・J・マルクス「古代キリスト論の意味を現代に問う」『カトリック研究』36号(1979年) 231-258頁。

2. 1. 2. 論文集の場合は、(1) 著者名、(2) 「 」でくくられた題名、(3) 編集者名、(4) 『 』でくくられた論文集名、(5) ()でくくられた出版社および発行年(論文集自体がシリーズに含まれる場合は、その号数を先に記す)、(6) 頁数。

大森正樹「ビザンツの修道制」上智大学中世思想研究所編『中世の修道制』(中世研究第8号、創文社、1991年) 9-39頁。

2. 2. 洋書

2. 2. 1. 洋書雑誌論文は、(1) 著者名、(2) 題名、(3) 雑誌名の略号、(4) 雑誌の巻数、(5) ()でくくられた発行年、(6) 頁数。

題名と雑誌の略号の区切りはコンマを用いる。論文の題名はイタリックにはせず、ダブルコーテーションマークでくくる。

単行本、雑誌論文、論文集所収論文の区別を問わず、洋書の場合は、頁数を表す p. pp. などの略号は付さない。

E. Schwartz, "Zur Kirchengeschichte des vierten Jahrhunderts", ZNW 34 (1935) 129-213.

2. 2. 2. 論文集の場合は、(1) 著者名、(2) 題名、(3) 編集者名、(4) 書名、(5) 発行地、(6) 発行年、(7) 頁数。

編者が単数の場合、編者名の後に ()でくくられた ed.、複数の場合には eds. と記す。

F. Wolfinger, "Liturgie und Inkulturation. 25 Jahre Liturgiereform in den jungen Kirchen", H. Becher / B. J. Hilberath / U. Willers (eds.), *Gottesdienst - Kirche - Gesellschaft* (= Pietas liturgica 5), St. Ottilien 1991, 357-370.